

## 古文 練習問題 ⑨ 『古今著聞集』

次の『古今著聞集』の一節を読んで、あとの問いに答えなさい。

醍醐の大僧正実賢、もちをやきて(1)くひけるに、(2)きはめたるねぶりの人にて、もちを持ちながら、ふたふたとねぶりけるに、まへに江次郎といふ恪勤者のありけるが、僧正のねぶりてうなづくを、われにこのもちくへと(3)気色あるぞと心得て、走りよりて手に持ちたるもちをとりてくひてけり。僧正おどろきてのち、ここに持ちたりつるもちとはたづねられければ、江次郎、そのもちは、はやくへと候ひつれば、たべ候ひぬとこたへけり。僧正、比興のことなりとて、諸人に(4)語りてわらひけるとぞ。

\*醍醐 醍醐寺 \*きはめたるねぶりの人 たちどころに居眠りを始め

てしまう人

\*ふたふたとうとうと \*恪勤者 僧正の身の世話をする侍 \*気色ある 合図をしてい  
る \*おどろきて 目を覚まして \*比興のこと おもしろいこと

一、(1) (2)を現代かなづかいになおしなさい。

(1) ( ) (2) ( )

二、(3)気色あるぞと心得てとあるが、江次郎は、僧正のどんな様子を誰ににど  
うしなさいという合図だと心得たのか。本文中の言葉を抜き出して、次の文の  
( )に書きなさい。

江次郎は、僧正の( )様子を

( )という合図だと心得た。

三、(4)語りての主語を本文中の言葉で答えなさい。

( ) ( )

答え

一、(1)くいける (2)きわめたる

二、江次郎は、僧正の(ねぶりてうなづく)様子を

(われにこのもちくへ)という合図だと心得た。

三、醍醐の大僧正実賢(僧正)

### 現代語訳

醍醐寺の大僧正である実賢が、もちを焼いて食べた時に、たちどころに居眠りを始めてしまう人だったので、もちを手を持ちながら、うとうとと眠ったころ、前にいた江次郎という僧正の身の世話をする侍が、僧正が眠って首をたてに振るのを、「わたしにこのもちを食べろという合図をしているぞ。」と判断して、走りよって(僧正が)手に持っているもちをとって食べてしまった。僧正が目を覚ましたあと、「ここに持っていたもちは(どうしたのか)」と尋ねられたので、江次郎は、「そのもちは、はやく食べろとありましたので、食べてしまいました。」と答えた。僧正は、おもしろいことであるといって多くの人に話して笑ったということだ。